

連携医院のご紹介

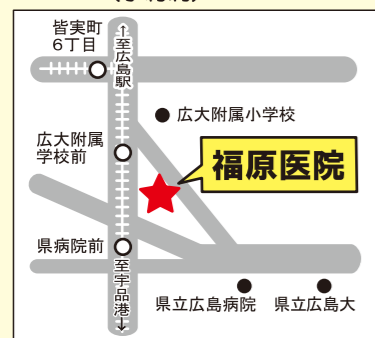
今回は、「長楽」という言葉を胸に「患者さんの人生と向き合うこと」を何よりも大切におられる、福原医院 榎山桂子先生です。



榎山院長

医療法人社団 福原医院

〒734-0005
 広島市南区翠1-2-11
 電話/082-241-1092
 F A X/082-251-9530
 院長/榎山 桂子
 診療科/内科・リウマチ科・呼吸器科・アレルギー科・外科・小児外科(予約制)



○いつ頃開業されましたか。

昭和2年、祖父の代にこの地で開業しました。そして、昭和51年、父の代に19床の入院施設を併設し、平成22年に継承後、現在も有床診療所として診療に取り組んでおります。

○開業されてから今までのことを教えてください。

父が築いてきたホームドクターとしての役割を継承し、医院での診療に加え、往診・訪問診療も行っております。また、広島大学病院での専門医療や遺伝子研究の成果も取り入れた診療を行っています。特に、遺伝子研究の成果はすでに一般検査に導入されてきており、今後、診療にも幅広く生かされるようになってくると思います。

○診療で大切にしていることは何ですか。

「患者さんの人生を受けとめ、向き合うこと」が、地域で診療にあたる内科医の務めだと思っております。その原点は、私の学生時代の書道の恩師から頂いた「長楽」という言葉にあります。「長く、楽しく」という意味が込めら

れており、患者さんがそのように生活していけるよう、一番良い治療の選択肢を共に考えることを大切にしております。

○開業医のやりがいについて教えてください。

患者さんから寄り添って頂けることが何より嬉しいですね。また、何代も家族で通院されている患者さんもおられ、地域の中で患者さんとともにいるという喜びを感じます。



福原医院外観

【取材後記】

医院での診療に加え、往診や研究・女性医師支援活動など、とても多忙な毎日を過ごしておられる榎山先生。リフレッシュについてお尋ねすると、「毎日のやりがいと続けられるんですよ」と笑顔でお答えくださいました。活力がみなぎる、本当に魅力ある先生でした。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。
 県立広島病院 で検索 (URL: http://www.hph.pref.hiroshima.jp/)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

精密検査
へ行こうよ!!

がん検診を受けた後の精密検査が必要な方対象!



検診センターで「要再検査」「要精密検査」の結果が出た方は
面倒がらずに、怖がらずに受診しましょう!

何ともなくて、症状がないので精密検査には行かなくてもいいだろうなどと思っていませんが。「がん」という悪性疾患であっても、糖尿病、腎臓病などでも、初期の段階であれば治せる病気も、1年間あるいは数ヶ月放置されることで、病気が進んでしまい一生付きあわないといけなくなります。紹介状・検査結果を持って受診してください。

県病院では、これらの病気については個人からの予約ができるようになりました!

- 乳がん 食道がん 胃がん 膵臓がん 胆管がん 胆嚢がん
- 肝臓がん 大腸がん 肺がん 子宮がん 前立腺がん

県病院では、検診機関、又は開業医による紹介に加えて今回、個人が直接精密検査を予約できる仕組みとしました。予約がないと紹介状を持っていても、検診・診察に時間がかかることがあります。精密検査の予約の際は、下記の電話番号にご連絡下さい。

検診を受けて、その結果で精密検査を受けたいのですが予約がとれますか?

とってお電話下さい。



県立広島病院 地域連携センター

電話番号: (082) 252-6241
 FAX: (082) 252-6240
 (受付時間: 平日午前9時~午後5時)

県立広島病院からのお知らせ

体重計壊れてるーそのこころにこころをいれよう。

もう一枚 脱いで測れど 目盛り変わらず
人に指摘される前につけねば...

今しがた 持っていたもの どこへやら
見事なチームワークです。

アレソレで 話が通じる 看護部メンバー

当院看護部長の力作を披露いたします。

看護師長 長川柳

第3回 広島在宅緩和ケア事例検討会

開催日 平成25年10月16日(水)
 時間 18:30~(2時間程度)
 場所 中央棟2階 講堂
 テーマ 『認知症を伴うがん患者の在宅支援』
 ~家族ケアを中心に~
 対象 医療従事者 及び その関係者
 共催 広島市南区医師会
 問合せ先 総務課管理係(担当:永岡)
 TEL(082)254-1818
 内線(4273)



KBネット

現在の参加医療機関は

114 機関です。
 (9月19日現在)

問合せ先 地域連携センター
 電話(082)252-6228(直通)

外来診療のご案内
 診療受付時間 午前8時30分~午前11時00分
 ※午後の診療は科によって異なります。

休診日 土曜日・日曜日・祝祭日
 年末年始(12月29日~1月3日)

紹介状持参のお願い

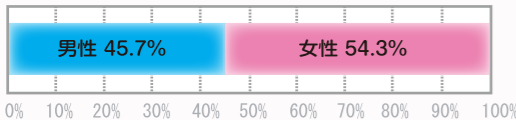
初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他、2,620円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。
 ※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなるございますので、ご了承下さい。

患者さん満足度 アンケート調査の報告

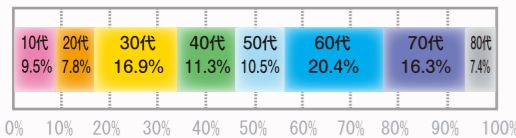
当院では毎年1回、入院及び外来患者さんに満足度調査を実施しています。多数の患者さんに御協力を頂き、誠にありがとうございました。なお、今後ともお気づきの点がございましたら、院内のご意見箱へお寄せ下さい。

外来 ● 調査期間：平成25年2月
● 調査母数：499人

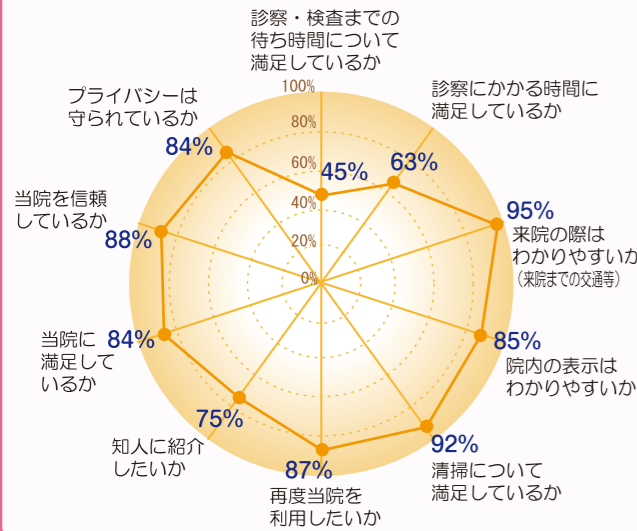
性別



年代別

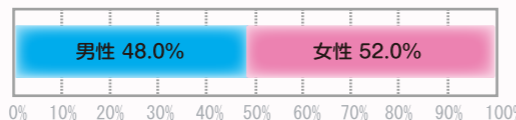


満足度

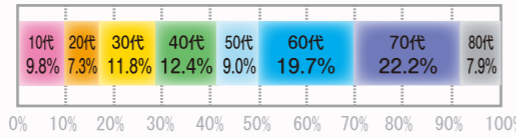


入院 ● 調査期間：平成25年2月
● 調査母数：357人

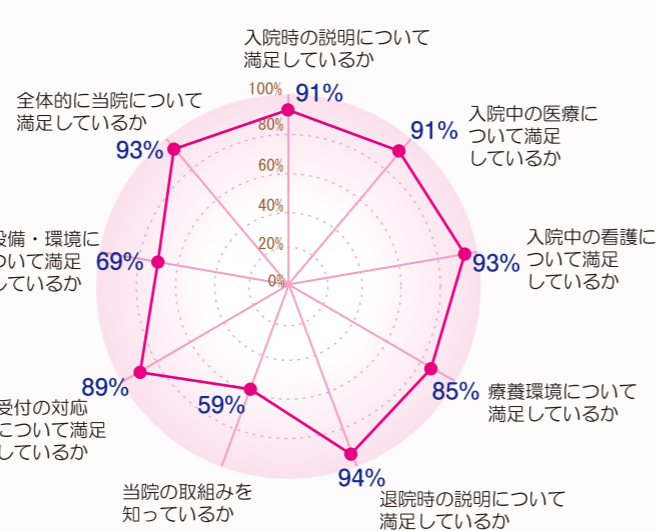
性別



年代別



満足度



県病の星 摂食嚥下障害看護認定看護師

「食べる」という行為は、生命維持に必要な栄養を取り入れる、味を楽しむ、食事の場面を通じてコミュニケーションを楽しむなど、私たちの生活においてとても大きな意味を持ちます。

摂食・嚥下(せつしょく・えんげ)とは、食べ物や水分を認識して口に取り込み、胃へ送り込む動作のことです。この動作機能に障害をきたすことを、摂食・嚥下障害といい、食べ物や水分を飲み込もうとすると気管に入ってしまう、食道へ行かずにのどに残ってしまうというような、誤嚥(ごえん)・窒息という症状がみられます。脳卒中や神経筋疾患、頭頸部疾患、加齢などの理由によって食べて飲み込む機能に障害をきたした患者さんに対して、誤嚥性肺炎、窒息、脱水、低栄養などのリスクを回避し、安全においしく食べるためのケアを実践しています。患者さんとご家族の「食べたい」という願いを支え、自分らしく健康に生きていくことを支援していきたいと思っています。日々の暮らしの中で困ったり、悩んだりすることがあれば一緒に考えていきましょう。いつでもご相談ください。



救命救急センター 大原



南2病棟 近藤

外科医の独り言 no.25

— 慈悲深い患者 —

医者になって30年、私にも研修医の時代がありました。社会、医療情勢の変化とともに研修医の働き方も今は随分と様変わりしていますが、私の時代は医学部を卒業するとまず大学病院で1年間研修します。外科医を志した私は、1年間外科の病棟で暮らしました。確か月給は6万円だったと思いますが、アパートの家賃は3万円、アパートで寝るより病院の当直室やカンファレンスルームで寝ることの方が多かったので電気ガス水道代はいつも基本料金でしたので何とか生きていくことができました。当時研修医にとって最も大事なことは、外科病棟の古参看護師に気に入られることだったのです。いくら医師と言ってもペーパー、実戦経験豊富な古参看護師にかなう訳がありません。古参看護師に嫌われると日常業務が円滑に進まなかったのです。生来、愛想が悪く、お世辞も言えなかった私は、様々なピンチを慈悲深い患者さんに救ってもらいました。

研修医にとって最初の難関は採血、注射です。患者さんにとっては、たまったものではありませんが、これは今でも同じだと思います。ある時ベッドサイドで点滴しようと悪戦苦闘、血管が細いのでなかなか入りません。古参看護師に気に入られていれば代わってもらって済むことも、背後の古参看護師からは冷たい視線を感じるのみ。患者さんには「すみません、すみません」と何度も謝りながらもどうしても点滴をしなければなりません。「先生、ここに点滴しなさい」と患者さんが指差す先の右ひじには太い静脈がありました。後で聞くと利き手の右ひじに点滴すると点滴中は何もできなくなるために、今まで看護師さんには点滴させなかった“とっておきの血管”だったらしいのです。

昔「ガス抜き」という処置がありました。最近は良い坐

薬があるのでこの処置をすることはありません。当時手術後の患者さんは3～4日間はベッドから動けなかったため、オナラが出なくてお腹が張ってしんどくなりますが、こんな時にガス抜きをします。お尻からゴムのチューブを20cm位入れて腸に溜まったガスを出す処置です。ある夜、先輩医師からガス抜きをやっておけ、と命令されて、「はて?どうやってするのか?」初めてのことでやり方がわかりません。悪いことに当直は古参看護師。今思えば先輩医師に聞けばよかったですが残念なことにそこまで頭が回りません。古参看護師に聞けば「そんなことも知らんの?」と馬鹿にされるだけです。そこで思いついたのが先の太くなった注射器、これを持って看護師に見つからないように暗い病室に行きました。患者さんの枕元の電気をつけ「今からお腹のガスを抜きますからね」と言って50ccの注射器の先を患者さんのお尻に入れてシュッパシュッパ。あまり抜けないなあと思っていたところに古参看護師が来て「あんた、何しとるんね!」と。「ガス抜きよ」とブスツとして反論するも、当然間違ったやり方をしていた私に勝ち目はありません。古参看護師に言われ放題。その時患者さんが「先生、楽になりました」と一言。この慈悲深い患者さんの言葉を今も忘れることができません。数年後にわかったのですが、この古参看護師さんも慈悲深い人でした。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長)板本敏行(いたもと としゆき)

ローソンから
県立広島病院が監修した

『健康弁当』が発売されました!!

コンビニと
医療機関の
お弁当は
全国初!!



500kcal以下
食塩3g以下
瀬戸内広島レモン
果汁使用!

9月24日(火)にローソンから当院の医師や管理栄養士が監修した『七穀米ごはんチキンカツ弁当』が発売されました。このお弁当は、美味しさとボリューム感を確保しながら、低カロリーに仕上げる調理方法や味付けなどの工夫によって500kcal以下、食塩相当量も3g以下に抑え、野菜を多く取り入れるなど、栄養バランスの取れたお弁当です。値段は税込みで590円。広島・岡山県内全域と、山口県と島根県の一部店舗を除くローソン414店舗で発売されました。(販売期間9月24日から10月7日)